



新政会  
田村 勇

### 市立病院の経営改善について

**質問** 看護師20人を確保し、休床している病棟を再稼働することで黒字に好転できるのか伺う。

**答弁** 仮に看護師20人を確保し、病棟を再稼働することができたとしても、それで黒字に好転するとはまでは考えていませんが、病棟の再稼働が収益改善のための有力な方策と考えています。

市立病院の経営改善については、専門知識を有したコンサルタント会社を活用しながら、収支改善のための短期・中長期改善策を盛り込む経営計画を策定し、市と市立病院が一体となりスピード感を持って取り組んでいくとともに、適正な医療従事者の確保に努めます。

**質問** 全国で専門知識を有するコンサルタント会社の有限責任監査法人トーマツ社による事例を伺う。

**答弁** 市立病院経営分析支援業務を受託した有限責任監査法人トーマツ社は、小樽市の新公立病院改

革プランの作成支援業務をはじめ、病院の経営計画の策定・実行支援業務、病床再編を伴う将来構想の策定支援業務など、全国の公的病院や大学、民間医療法人などの経営改善業務に従事され、一定の成果を上げていると聞いています。

**質問** 市立病院サイドだけの改善計画では限界なのか伺う。

**答弁** 市立病院では、平成27年度に想定外に経営状況が悪化し、年度末に5億円の資金不足が発生したことから、28年度に経営計画を策定して取り組んできましたが、30年度末までの累積資金不足額は8億4,700万円にまで拡大したことから、市立病院の経営問題を市全体の最重要課題と捉え、これまで以上に市と市立病院が一丸となるとともに、専門知識を有する有限責任監査法人トーマツ社の英知も結集しながら、累積赤字の解消などに全力を挙げて進めていきます。

### 返礼品の納税について

**質問** 8億円を超えるふるさと納税は喜ばしいことだが、返礼品の選定に対する考え方と、返礼品取

扱事業者との今後の関係についてのようによく考えているのか伺う。

**答弁** ふるさと納税の返礼品の選定については、市内で生産された農産品や地場企業で製造・加工されたものを、市内で利用できる利用券などを基本に、返礼割合も3割以下に設定し、総務省の示す6月施行の新しい基準からも逸脱しない範囲で、進めていくことを考えています。

また、返礼品取扱事業者とは、常に良好な関係を保ちながら、今後も寄付者の興味を引くような商品開発をお願いし、ふるさと納税を通じて地元特産品のPRや地元企業の育成につながるよう進めていきたいと考えています。

### 子どものネット環境について

**質問** 子どもたちのインターネット、SNS、フェイスブックなどのネットトラブルの把握およびスマートフォンへの取り扱い、学校の指導などの実態について伺う。

**答弁** 学校へのスマートフォンを持ち込みについては、各学校の判断に委ねていますが、現状すべての小・中学校において禁止してい

ます。子どもたちのネットトラブルの状況については、定期的にスマートフォンや携帯電話などの利用に関する意識調査を行うとともに、学校を通じた情報収集にも努めています。

北海道青少年健全育成条例では、18歳未満の青少年が利用者としてスマートフォンなどを契約する場合は、有害な情報を閲覧しにくくするサービスであるフィルタリングを義務化しています。また、北海道教育委員会では、委託業者によるネットパトロールを行っており、インターネット上に不適切な書き込みが検出された場合は、委託業者より直接市教育委員会へ情報提供され、その後、市教育委員会より学校へ情報提供をしています。

市教育委員会としては、スマートフォンなどの利用について、家庭内でスマートフォンなどの利用ルールを決めることが重要と考え、保護者に対して、中学校の入学説明会やPTA連合会の研修会の場などでリーフレットを用いて説明を行ったり、ホームページや定期刊行物による啓発活動も実施しています。